【167】

氏名	松　本　貴
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３１７１号
学位授与の日付	平成９年１２月３１日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	Immunohistochemical Analysis of Glutathione S-Transferase π in ovarian tumors （卵巣癌におけるGlutathione S-Transferase π 発現の免疫組織学的検討）
論文審査委員	教授　大森　弘之　教授　岡田　茂　教授　赤木　忠厚

学位論文内容の要旨

Glutathione S-Transferase π（GST π）は種々の悪性腫瘍に発現しており，その増加は多剤耐性の獲得と関係していることが示されている。今回、我々は卵巣腫瘍におけるGST πの発現を免疫組織学的に検討し臨床病理学的特徴との関連を調べた。上皮性卵巣腫瘍78例での検討の結果、全例においてGST πの発現を認め、卵巣癌では特に強い発現を認めた。しかしGST π発現と臨床進行期、組織型との関連は認められなかった。漿液性嚢胞性腺癌ではGST π弱陽性例はGST π強発現例に比し、より化学療法が奏効し、その結果長期生存が得られていた。他の組織型ではそのような傾向は認めなかった。化学療法施行前にGST π弱陽性であった８例中３例は化学療法後、GST π発現の増強を認めた。GST πの発現は、少なくとも漿液性嚢胞性腺癌においてはその発現強度が自然耐性、獲得耐性両者の有用なマーカーとなりうることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、上皮性卵巣腫瘍におけるGlutathione S-Tranceferase π（GST π）の発現を免疫組織学的に検討したものであり、全例にGST πの発現を認め、とくに卵巣癌では強い発現が示され、中でも漿液性嚢胞性腺癌ではGST π弱陽性例は強発現例に比し，より化学療法が奏功し，長期生存が得られていることを見出した。また，化学療法施行前にGST π弱陽性であった８例中３例においては，化学療法後GST π発現の増強を認めている。

以上の研究成果は，GST π発現は漿液性嚢胞性腺癌において，その発現強度が自然耐性，獲得耐性両者の有用なマーカーとなりうることを示唆する重要な知見であり，本研究者は学位（医学）を受ける資格があるものと認める。